



卷頭言

西川, 榮一

(Citation)

海事資料館研究年報, 26

(Issue Date)

1998

(Resource Type)

other

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005692>



巻 頭 言

海事資料館館長 西 川 栄 一

本学海事資料館の歴史は、昭和33年（1958）10月、その前身である海事参考館が開設された時に始まり、昭和43年（1968）7月、海事資料館講堂が建設されたのを機に海事資料館と改称され、今日に至っています。したがって、今年平成10年（1998）の秋には、開設以来、全史で丁度40年、海事資料館として30年が経つこととなります。この間、海事にかかるさまざまな資料の収集と、その展示などを行ない、海事関連の資料センターとして一定の役割を果たし、あちこちの施設案内にも紹介されるまでになってきています。

現在資料館には、学内外の関係者諸兄のご尽力により約3,000点の資料が所蔵されるに至っています。しかし折角の資料も、予算や人員が皆無に近い状態で、整理や分類、由来調査や解題づくりなどが思うように進められず、約3,000点と、“約”を付さねばならないように、資料リストさえ不明確な状態にあります。また1995年1月17日の阪神淡路大震災によって資料館は壊滅的な打撃を受けました。主要な展示品及び展示室については、現在ほぼ修復整備が終わっていますが、倉庫などに保管されている多くの資料については十分な対応ができていません。

こんな次第で資料の基本戸籍も十分に把握されておらず、残念なことに“宝のもちぐされ”といった感がぬぐえない状況にあります。そこで海事資料館40年の歴史に当たる年を機会に、所蔵資料の整理と目録作成事業を進めようと企画しました。資金が必要ですが、学長をはじめご関係の方々是本企画の趣旨を理解され、幸いにも75周年記念事業（この事業全体は1998年に一応終了しています）の一環として、予算の支援を頂けることになりました。

といった経過で、念願であった海事資料館資料の本格的な整理事業が始められることになりました。具体的には、資料の目録作成、電子データベース化、主要資料の解題と展示用説明板づくりなどを計画しています。すでに海事資料館専門委員会の中にこのための実行委員会（委員長は本学の杉田英昭教授）も組織され、実際の作業を進める体制もできあがっています。解題づくりでは、海事資料に関する豊富な史的知見が必要ですが、こちらは、専門委員になって頂いている本学名誉教授の先生方で陣容が揃っています。幸い諸先生方にもこの事業にご理解をいただき、大きなご支援を頂けるものと思います。

このような資料整理ができれば、その情報の公開、提供、資料の調査研究活動、さらに海事資料館としての公開講座なども可能になり、学内外に歴史的な海事関連の情報を発信できる、本学の特徴ある施設の1つとして発展させる展望が出てくると思われます。ご期待下さい。